

愛知県認知症施策推進会議第2回ワーキンググループ会議の結果について

1 日時

平成30年8月30日（木）午後2時から午後3時30分まで

2 場所

愛知県自治センター 5階 研修室

3 出席者

別添出席者名簿のとおり

4 議題

条例の構成項目及び考え方（たたき台）について

5 主な意見

（愛知らしさについて）

- ・ 条例において愛知らしさをどのように表現するかが課題。
- ・ 愛知県はものづくり企業が多く、事業者の関心も高い。家族も含めて働きやすい環境づくりは大事。
- ・ 「認知症の人と家族へ期待」することが出せるといい。愛知県の認知症の人と家族の会は、全国の中でも活動が活発なので、愛知らしさにもなる。
- ・ 愛知県は、南海トラフなど災害の対応が課題であるので、災害について触れられないか。
- ・ 様々な研究を行っている長寿研が立地していることは愛知の強み。着実に進むよう長寿研の環境整備を打ち出せるといい。

（認知症の人と家族について）

- ・ 認知症の人と家族の経験は社会資源であり重要。
- ・ 認知症の人とその家族も県民なので、「県民の役割」の項目において、認知症の人とその家族もやれることはやるということがいい。
- ・ 認知症の人の社会参加や見守り体制において、認知症の人とともにその家族もと書き込んだほうがいい。
- ・ 認知症の家族として、ヤングケアラーの視点、若い世代に認知症を理解してもらうことが必要。
- ・ 国において認知症施策に関する法制化の動きがあり、公明党の認知症施策推進基本法骨子案において「…、認知症の人及びその家族その他の関係者の意見を聴くよう努めなければならない」という文言が複数あるので、県の条例においても検討したほうがいい。

- ・ 認知症の人は、普通に外出をし、ジムに行ったりしたいと考えている。地域づくりの項目において、そのようなことが表現できるといい。
- ・ 医療・介護にかかわる人のスキルアップだけではなく、温かみも大事である。

(連携について)

- ・ 認知症高齢者の一人歩きの面で県警との連携は重要。
- ・ 認知症に関する普及啓発の面で、小中学校等の教育機関との連携は重要。

(その他)

- ・ 認知症の人の意思決定支援は、認知症の初期から成年後見制度が必要な段階までであるので、「相談支援活動の促進」の項目に具体的に書き込めるといい。
- ・ 条文の中に「認知症に理解の深いまちづくり」とあり、「まちづくり」を使っている一方で「地域づくり」を使っている箇所もある。整理ができるといい。

(以上)